

ぱれっと

2008
3月
No.103

■ 目次 ■

- P. 2～3 すぽっとらいと 青少年の自立をサポート
「特定非営利活動法人 ミヤギユースセンター」
- P. 4 サボセン日記 団体の図書を販売しませんか？ 「図書委託販売」
- P. 5 ミニサポダス 会議の合間にほっと一息 「茶器の貸出」
サボ本を読もう！
サボセン広場
- P. 6 アラカルト NPO・小さな市民活動団体の運営の秘訣シリーズ
第3弾 展望編・第4弾 見返り美人編
- P. 7 イベント紹介
- P. 8 お知らせ など

「参加する、実践する、楽しむ」がキーワード ～シニア元気笑学校～



<「笑学校」の授業風景>

2006年4月の開校以来、大勢の高齢者の方々が楽しく学んでいます。「シニアの皆さんが試験なしで入学でき、《共に学び、遊び、仲間づくりをする》楽しい学校」これがこの学校のキャッチコピーです。とてもユニークですね。

「閉じこもらないで、“出てくれば”、うわー！仲間がいっぱい！よく学び、よく遊び、楽しいね！」と渡辺源治校長先生。面白いのは課外授業で「ホームルーム」「抽選会」「部活」「遠足」ありというところ。

一度覗いてみてはいかがでしょうか？

[連絡先]

仙台市太白区鹿野本町18-35
TEL 022-248-3765 FAX 022-248-3775

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

青少年の自立をサポート 「特定非営利活動法人ミヤギユースセンター」

市民活動サポートセンターを会場に開催されている「もう一つの進路説明会」をご存知ですか。今回は、この進路説明会を定期的に開催している特定非営利活動法人ミヤギユースセンター（以下ミヤギユースセンター）を訪ね、活動の内容や団体運営の秘訣について代表の土佐昭一郎さんにお話をうかがいました。



ミヤギユースセンター
代表 土佐昭一郎さん
～個別相談会の様子～

●自立のための進路を支援

ミヤギユースセンターは、中卒・高校中退、不登校などで悩んでいる青少年の自立をサポートするために、2001年9月に設立した団体です。代表の土佐さんが、活動を始めようと思ったきっかけの一つは、当時宮城県では、高校中退者や不登校生徒の受け入れ先が少なく、その必要性を強く感じたためです。行き場を失くし悩んでいる子どもたちに、高校を卒業するためには多くの方法があることを伝え、相談の窓口になりたかったのだとおっしゃいます。

例えば、その方法の一つに高校卒業程度認定試験（高卒認定試験）があります。この試験に合格することで、高等学校卒業と同等以上の資格があると認められ、大学受験など次へのステップへ進むことができるのです。

ミヤギユースセンターでは、「もう一つの進路説明会」と題し、一人ひとりにあった進路を考えるための情報提供や個別相談会を月一回位のペースで定期的に行うほか、週4日間教室を開き、子どもたちへの学習指導を行っています。

●情報を発信し続ける

教室をスタートした頃は4名だった生徒が、時期によってばらつきはあるものの、今では50名を超えるようになりました。また、相談も新規だけで年間250件ほど受けるそうです。

ミヤギユースセンターでは、活動をより多くの人に伝えるために、さまざまな取り組みを行っています。1つ目はホームページによる情報発信です。自宅にいながら情報を入手する手段として、インターネットはいまや欠かせません。ホームページでは、ミヤギユースセンターがどんな団体で、何を目的に、どのような活動を行っているのか、具体的にわかりやすく紹介しています。学習の様子を写真入りで紹介したり、卒業生のメッ

セージを読むことができたり、場の雰囲気や成果を伝える工夫も忘れていません。その結果、かなりの情報をホームページから入手することができるのです。

2つ目は、紙媒体による情報発信です。進路説明会や個別相談会開催のお知らせは、チラシを作成してサポセンをはじめとする公共施設へ配架しています。もちろん、「骨プロ」*1も活用しています。また、毎年秋に開催される「せんだいCARES」*2にも積極的に参加し、パンフレットへの情報掲載を続けてきました。このパンフレットは協賛企業へも配布されるため、会社でパンフレットを手にした父親から相談が寄せられるなど、普段とは少し違った嬉しい反応があったそうです。

チラシにしても、パンフレットにしても、配布と同時に即、大きな反響があるわけではありません。けれども、団体の活動を紹介する機会があれば積極的に参加しているそうです。「情報発信しつづけることが大切。活動を始めたなら自然と人が集まってくると思っている人が多いですが、地道な努力が必要なのです。」と土佐さん。

*1 骨プロ(仙台に情報の背骨を通すプロジェクト)

市民の皆さんの情報の受発信を支援するために、仙台市内の9つの公共施設が協力して行うプロジェクトです。仙台市内の9つの公共施設に、市民活動団体のイベントチラシを、配置するサポートを行っています。

*2 せんだいCARES

仙台のまちのお世話(ケア)をしているNPOの活動に、市民や企業が参加することで仙台をより住みやすい街にしよう、2002年から始まった市民参加型のまちづくりキャンペーン。NPOの活動に参加するきっかけの一つとしてパンフレットによる情報提供を行っており、2007年は、25,000部のパンフレットを協賛企業や公共施設など仙台市内に配布し、市民の皆さんに届けました。

(主催:せんだいCARES実行委員会)

団体紹介

特定非営利活動法人ミヤギユースセンター

中卒・高校中退・不登校、軽度の発達障害などで悩んでいる方の「未来を創造するサポーター」です。学習支援、自立のための進路支援、相談会を開催しながら、青少年の自立を支援しています。

<団体連絡先>

〒983 - 0852

仙台市宮城野区榴岡2丁目2-8-203

TEL 022 - 256 - 7977

<http://www.miyagiyouth.npo-jp.net>

Mail:miyagiyouth@npo-jp.net



学習時間の1コマ

●NPO支援施設のフル活用

ミヤギユースセンターは、サポセンの事務用ブースを2002年9月から2005年5月まで使用していました。事務所をサポセンに置くことは、団体としての信用保証につながったといいます。一方、学習指導は、宮城県が設置したNPO活動の支援施設「みやぎNPOプラザ」の貸室を利用して行っていました。二つの施設を目的に応じて上手に使いわけながら、着実に活動を積み重ねてきました。そして、2005年6月から、仙台駅東口近くに教室を設置し、新たな拠点での活動を行っています。サポセンでは、事務用ブース卒業後も、貸室を使用して「もう一つの進路説明会」を月1回くらいの割合で開催しています。

●ゆるがないミッション（使命）

行政や企業に左右されず、利益主義にならず、地域に根ざした教育を実践できるよう、NPOとして活動を始めてから今年で7年目を迎えました。

NPOの良さは合議制にあると土佐さんは感じています。長年の企業での勤務経験からトップダウンというやり方に疑問を持っていたそうです。ミヤギユースセンターでは、運営方針など組織に関する意思決定は理事会でなされ、活動の方向性が個人の考えに左右されることはありません。また、組織のミッション（使命）が明確なので、活動自体が決してぶれることがないのだといいます。NPOにとってのミッションとは、「ある課題の解決にむけて、誰のために、何をするか」をわかりやすく定義したものです。

「さまざまな事情により、やむを得ず不登校となった生徒や高校中退者のために、自分で考え、自分の足で立てるような支援（サポート）をすること」これがミヤギユースセンターのミッションであり、設立当初から一貫して目指すところです。

●成果は子どもたちの自立

取材のために教室を訪ねたのは、平日の午後。入れ替わり立ち替わり、生徒がやってきては生徒一人ひとりに用意された課題を受け取り、学習に取り組んでいました。先生は、生徒がわからないことがあった場合のみサポートします。この独自の指導スタイルが、自分で生きる力、生きていく力を育てているのです。その日は、ボランティアの大学生が先生として学習をサポートしていました。彼もかつては不登校になり引きこもった経験を持ち、同じように学習していた一人だったということです。

一人ひとりがそれぞれの理由から、ミヤギユースセンターに通ってきます。今まで、約170名が学び、巣立っていきました。進路に悩む若者やそれを見守る方たちには、「まずは相談に来て欲しい」と土佐さん。悩んでいる子どもたちが元気になって、自分の足で歩いていくことが何よりの成果と語ります。

ミヤギユースセンターでは、生徒たちの声に耳を傾け、これからも一人ひとりにあわせた丁寧な指導を行いながら活動を続けていきます。

（担当：小松 州子）



◆サポセンのサービスいろいろ。
どんなふうに使えるのか紹介します！

サポセン日記

今月のテーマ ～ 図書委託販売 ～



都市デザインワークス
佐藤芳治さん

● 図書委託販売って何？

市民活動団体が活動の報告、調査、研究をまとめた図書や成果物として作った本をサポセンでお預かりし、1階窓口にて販売しているサービスです。2005年8月にスタートしました。

● 図書委託販売のメリットは？

- その1 サポートセンターに来館する市民の皆さんの目に留まります。
- その2 団体の活動を市民の皆さんに知ってもらうチャンスが増えます。
- その3 本が売れるとそのお金が団体の資金になります。
→小さな資金からコツコツと
- その4 県外にも団体の情報をPRすることができます。
→サポートセンターには県外からの視察も多く、お土産に本を買っていくこともあります。

● どうやって申し込むの？

団体で作った本をサポートセンター窓口にお持ちください。図書委託販売申込書と団体紹介シートにご記入いただきます。

● 販売期間はどのくらい？

1年間です。1回に限り更新できますので、最長2年間販売できます。一度にお預かりできる本は、1団体3種類までです。

● 販売中の書籍（2008年2月1日現在）

| 書籍名・発行者 | 価格 |
|---|--------|
| 泉区福祉ガイドブック 泉区福祉ガイドブック作成委員会 | ¥945 |
| 都市デザインガイドブック せんだいセントラルパーク2006 (特活) 都市デザインワークス | ¥2,000 |
| 「建てる」前に読む本 (特活) 家づくり援護会 | ¥1,680 |
| 木造住宅工事チェック・ハンドブック (特活) 家づくり援護会 | ¥1,680 |
| 協働で地域づくりを「変える」「つなぐ」「活かす」 (特活) まちづくり政策フォーラム | ¥1,500 |
| シニアネット仙台十年のあゆみ (特活) シニアのための市民ネットワーク仙台 | ¥1,000 |
| じょうずに使おう薬と食品 (特活) ふあるま・ねっと・みやぎ | ¥600 |

● 使っている人に

突撃インタビュー！

サポートセンターで図書委託販売を利用している、「都市デザインワークス」の佐藤芳治さんにお話をうかがいました。「都市デザインワークス」は、図書委託販売がスタートした当初から継続して、団体で作った様々な本をサポセンに預け、図書委託販売を利用しています。

スタッフ：本を作ろう！と思ったキッカケは何ですか？

佐藤さん：自分たちの活動を市民の皆さんに知ってもらいたいということですね。まちづくりは一人ではできません。この本を手にとってくれた方が、活動に関心を持ち参加してくれたらいいなという願いもあります。それから、今までの調査等が風化しないように本にまとめました。ただの報告書にならないように市民の方に手にとってもらえるようわかりやすく作ることで、活動が広がるきっかけにもなると思います。

スタッフ：本を作ってみて、周囲の反応はどうでしたか？

佐藤さん：本を読んだ方から、仙台の町並みができた歴史的背景がよくわかったという感想を頂きました。このような読み手からの反応は、団体としても大変嬉しいものです。

スタッフ：メリットがあれば教えてください。

佐藤さん：団体の事務所以外の場所で本が売れるというのが最大のメリットです。サポセンは仙台市街中心部にあり立ち寄りやすいので、みなさんに紹介しやすいですね。また、サポセンは様々なマッチングの場所でもありますし、本が人との出会いを広げてくれると考えています。今後は、図書委託販売コーナーにもっとたくさんの団体の本が増える事を期待します。

せっかく作った報告書、成果物が市民の目に留まらぬままになっていませんか？眠っている本などお心当たりがあれば、ぜひサポセンにご相談ください。

(担当：豊泉 昭子)

ミニサポダス

◆サボセンの利用状況を
毎月テーマを変えてお知らせしています！

■会議の合間にほっと一息、リフレッシュ 『茶器の貸出サービス』

サボセンでは、茶碗、グラス、電気ポット、急須、茶こぼしなどのお茶道具から、皿やはし、フォーク、スプーンなどの食器類などの貸出をしています。

会議や事務作業をしているとき、一息つきたくなることはありませんか？そんな時、味気ないペットボトルのお茶ではなく、入れたてのお茶が出てきたら・・・気分をリフレッシュでき、作業効率もUPするのではないのでしょうか。

▼ 2007年12月の主な茶器類の貸出個数

| 順位 | 種類 | 個数 |
|----|-------|-----|
| 1 | 茶碗 | 468 |
| 2 | 皿 | 110 |
| 3 | グラス | 108 |
| 4 | 電気ポット | 63 |
| 5 | 急須 | 35 |



1ヶ月間で一番出番が多い茶碗は、なんと468個も貸し出されていました！

単純に、468人がペットボトル（500ml）でお茶を持込んだとすると…

重さ約14kg、ごみ袋約9つ分のペットボトルがゴミとして処理されることとなります（500mlペットボトルの重さは約30g、ごみ袋1つに入るペットボトルは約50個）。

洗って繰り返し使える茶碗を利用することはゴミの削減にもつながっているんですね。

茶器類は、1階窓口で貸出しています。4階の給湯室で、お湯を汲んだり茶わんを洗ったりできます。無料でお貸ししますが先着順ですので、イベントなどで大量に必要でしたら、事前に事務局までご相談いただけると確実です。

（担当：内川 奈津子）



『宅急便を創った男
小倉昌男の福祉革命
～障害者「月給1万円」からの脱出～』
著者：建野友保
発行：小学館
定価：560円（税込）
■サボセン図書
「C福祉」の棚にあります。

◆サボセンの図書コーナーの本を紹介します。
サポ本を読もう！
ヤマト運輸を率い、宅急便を創った経営者、小倉昌男氏が現役を退いて始めたのが、福祉の仕事です。私財を投じてヤマト福祉財団を立ち上げ、福祉の現場で彼が見たものは、作業所に通う障害者の月給が1万円程度という憤慨すべき現状でした。
小倉氏は「この問題は、作業所に経営の感覚がないことだ」と見抜きます。作業所の運営者を対象としたセミナーを主催し、作業所の経営について啓蒙していきます。福祉は、お金儲けではない」という参加者の意見には、障害者の自立や幸福のために、お金儲けをして何が悪いのか、そういう考えはやめていただきたい」と明確です。
そして、経営者・小倉の実践として、障害者が働く焼きたてパンのスワンベーカーを立ち上げ、月給10万円を達成して見せます。経営の視点から福祉を捉え、実践した小倉氏の発想と行動力が福祉の世界に意識革命をもたらしました。
※小倉氏は、2005年に80歳で逝去されました。その遺志は、ヤマト福祉財団を始めとしたヤマトホールディンググループに引き継がれています。
担当 黒澤 学

サポセン広場

◆利用者の皆様から寄せられた声にお応えします。

印刷機を使いましたが、たびたび「コインをお入れ下さい」と表示されるのですが…

印刷機のご利用ありがとうございます。
この現象は、印刷機使用中に90秒以上動作が止まると、機械が『印刷を終了した』と判断するために起こります。ご面倒をおかけしますが、再度100円を入れてください。後から入れた100円は戻ってきます。
また、「紙詰まり」や「インク切れ」などの表示が出た場合、すぐにスタッフが参りますので、スタッフへ声をかけてくださいね。

アラカルト

◆市民活動の旬の話題やサポセンで開催された講座の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

～事業報告～

NPO・小さな市民活動団体の運営の秘訣シリーズ

第3弾 展望編

日時：2007年10月23日（火）18：30～21：30

場所：市民活動サポートセンター 研修室5

講師：紅邑晶子氏

（特活）せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長

展望編では4つの実践的なワーク（作業）を通して、組織と自分の関わりについて考えました。

ワーク1 あなたと組織の関係を確かめる

以下の質問に答えて、客観的に自分と組織の関係をみつめます。

質問1：組織の活動に参加して楽しいか？

質問2：あなたの団体の活動は社会の中で役にたっているか？

ワーク2 組織の気になるところをあぶり出す

以下の項目を紙に書き出すことで、課題に対する解決方法や一緒に動いている人が見えてきます。個人の声ではなく、束の声にしていくと社会に対し解決法を提案しやすくなります。

<記入例>

| 団体名、名前 | |
|---------------------------------|-------------------|
| 1. 気になること（問題、困った!） | 2. なぜ気になるか、その理由は？ |
| 4. 解決方法（一緒に解決できるメンバーがいれば書き出します） | 3. その原因は？ |

ワーク3 あなたが組織に提供できること、したいことを考える

組織であなたが、

- ①提供できること
- ②取り組みたいこと
- ③それをいかすにはどうしたらよいか

について、A4用紙に書き出します。人と違ってできることだけではなく、自分が普通にできることも書きます。自分が組織に提供できることを考えることは少ないですが、自分にとっては当たり前の事が、他の人から見たらすごいということもあるものです。

ワーク4 夢を語る

実現性は無視して、組織で実現したい夢について書き、書いたものを読み上げます。それに対して、隣の人が応援のメッセージを言うというワークを通して、参加者は希望を胸に講座を終えました。

第4弾 見返り美人編

日時：2008年1月25日（金）18：30～21：30

場所：市民活動サポートセンター 研修室5

講師：松本美穂氏

（特活）市民フォーラム21・NPOセンター 事務局次長

見返り美人編では、ロジックモデルを用いたワークショップで活動評価について学びました。ロジックモデルとは、めざすところ（団体の目標）と出発点（事業）をむすび、その道のりを示す地図を書くもので、「この目標のためにはどういう道のりを歩むべきか？」という企画立案と、「この事業は、なぜ有効だといえるの？」という評価に活用できる手法です。

1. 団体の目標の確認

まず、団体が目標に向かって事業を行っていることを確認します。事業を遂行するだけで、きちんと活動しているという錯覚を起こしてしまいますが、事業はあくまでも手段です。

2. ロジックモデルの例

ロジックモデルで評価を行うには、事業を起点に、直接の結果、短期成果、中期成果、長期成果、最終目標（団体の目標）を書き出して線をつないでいきます。

<例>健康増進を目指している団体が、禁煙教室を開催する場合

| 事業 | 直接の結果 | 短期成果 | 中期成果 | 長期成果 | 最終目標 |
|---------|------------------|--------------|-------------|------------|------|
| 禁煙教室の開催 | 市民に禁煙教室に参加してもらおう | 参加者が喫煙の怖さを知る | 参加者が禁煙に挑戦する | タバコを吸わなくなる | 健康増進 |

3. ワークショップ

安心して子どもが育つ地域づくりをめざす団体が行っている3つの事業を例にグループで実際にロジックモデルの作成に取り組みました。実際に取り組みしてみると、直接の結果（「参加してもらおう」「サービスを知ってもらおう」など）が見落としがちになることに気づきます。

参加者には、自分の組織で実行できるよう、ロジックモデルのワークブックが配布されました。

本年度、4回にわたって開催したNPO・小さな市民活動団体の運営の秘訣シリーズは、NPOの立ち上げについての講座から始まりました。会議の仕方、組織との関わり方、活動評価についてはワークショップを取り入れ、参加者が身をもって体験できる講座でした。参加者のみなさんが、その体験を団体に持ち帰り、活動の活性化のために、団体内で共有していただければと思います。

（担当：太田 貴）

- ◆第1弾 「立志編」 報告 「ぱれっと」 2007年 8月号参照
- ◆第2弾 「同士編」 報告 「ぱれっと」 2007年11月号参照

イベント 紹介 3月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。



| 開催日 | 時間 | イベントタイトル | 貸室 | 参加費 | 主催 | 問い合わせ先 |
|-------------------|---------------------|---|---|---|---|---|
| 3/1 | 14:00 ～ 17:00 | 子どもの「つまづき」には一人ひとり違った背景があり、原因も様々！一緒に悩みを語り合いませんか？ | 研修室 2 | 500円 (事前申込不要) | みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 | TEL 080-1838-7464 (星野はるか) |
| 3/7 | 15:00 ～ 18:30 | 東北ろうきん 「パートナーシップ2007」 報告会&シンポジウム | 市民活動 シアター | 無料 (事前申込必要) | 東北労働金庫 | TEL 022-723-1118 FAX 022-215-3169 (北 尚登・多田正洋) |
| 3/8 | 13:30 ～ 16:30 | 学習交流会「介護にかかわるみんなのつどい」ヘルパーの働きがいと誇り、よりよい介護をめざして | セミナー ホール | 500円 (事前申込不要) | みやぎヘルパー・介護労働者連絡会 | TEL 022-236-9651 FAX 022-283-0035 (上條栄治) |
| 3/13 ～ | 18:30 ～ 21:00 | リラックスやリフレッシュはどうしていますか？すぐに役立つフットケアを覚えてボランティアにも活用 | 研修室 3 | 受講料：20,000円 認定・申請テキスト代：10,000円 教材費：7,000円 (事前申込必要) | J R F A 足市場 | TEL&FAX 022-223-9023 携帯 090-7564-9831 (森) |
| 3/22 | 15:00 ～ 16:00 | ライブ文学館 <小説を聴く～「死神の精度」> | 市民活動 シアター | 1,000円 (事前申込必要) | (財)仙台市 市民文化 事業団 | TEL 022-271-3020 FAX 022-271-3044 (仙台文学館 赤間) |
| 3/23 | 13:00 ～ 16:30 | KHJ宮城県「タオ」 不登校とひきこもり相談 | 研修室 5 | 1,000円 (2人以上1,500円) (事前申込不要) | KHJ 宮城県 タオ | TEL 090-6781-7879 (佐藤 傑) |
| 3/29 ～ 3/30 | 10:00 ～ 17:00 | 東北シニアライフアドバイザー協会 全国一斉電話相談 シニアの悩み110番 | 受付電話番号(2日間限り有効) 022-721-0260 022-721-0261 | 東北 SLA協会 | TEL 090-8560-3528 FAX 022-373-7529 (小菅文雄) | |

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

サポセン3階・シニア活動支援センターからの情報をお届けします！

■専門相談<無料・要申込>

| 相談日 | テーマ |
|-----------------|---|
| 3月 8日 (土) | まちづくり系NPOを紹介します！ (特活) 都市デザインワークス 代表理事 榊原 進さん (特活) まちづくりcom 代表理事 加藤 渉さん |
| 27日 (木) | 仕事上の技を市民活動で活かしませんか？ (社) 仙台市シルバー人材センター 事務局長 岡田則男さん ※もう一団体は交渉中 |

< 申込み・問合せ >

仙台市シニア活動支援センター TEL:217-3983

■シニアサロン

<参加費1,500円(ワンドリンク付)要申込>

「定年退職後の居場所づくり」 ～引きこもる前に居場所を探そう！～

※ ゲストは未定

○日 時：3月17日(月)午後6時半～8時半

○場 所：市民活動サポートセンター
4階 研修室5

○定 員：20名(先着順)

お知らせ

Don't miss it!



サポセン・シアターを3倍面白くする企画、大募集!

「市民活動シアター」は2006年9月、仙台市のまちなか一番町四丁目に誕生しました。120㎡の平土間スペースは、コンサート、演劇、上映会、展示会、ワークショップなどアイデア次第で様々な表情をみせます。

文化芸術活動の創造・発信、NPO活動の発信を目的としたシアターの可能性、あなたの可能性をひらく、魅力あふれる企画をご提案ください。

- ・ 応募受付期間： 2008年2月28日(木)～3月5日(水)
- ・ 実施期間： 2008年9月～2009年2月
実施期間内に「市民活動シアター」を会場として行う企画が対象となります。
- ・ 募集数： 6企画
選考した企画は、2008年9月～2009年2月までの期間に、1ヶ月に1企画ずつ実施します。
- ・ 申込み・問合せ
仙台市市民活動サポートセンター
TEL.022-212-3010 FAX.022-268-4042
担当:小松、内川

編集後記

今シーズンは雪がたくさん降り、スノーボードフリークの私にとっては最高のシーズンとなっています。平日は県内、休日には県外へと繰り出しています。一度でいいから、ハイシーズンに北海道で滑ってみたいです。
(千葉やす恵)

『はなをくんくん』(福音館書店)という絵本がある。動物たちが春のにおいをかぎわけ、森の中の一ヶ所にあつまると可愛い花が咲いているというおはなし。3月に入って街中にも、もうすぐ春の気配が…みなさんは、どんなことで春を感じますか?(葛西淳子)

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

- 開館時間 平日 / 午前9時～午後10時
日曜・祝日 / 午前9時～午後6時
- 休館日のお知らせ(施設点検等のため)
2/27(水) 3/26(水)

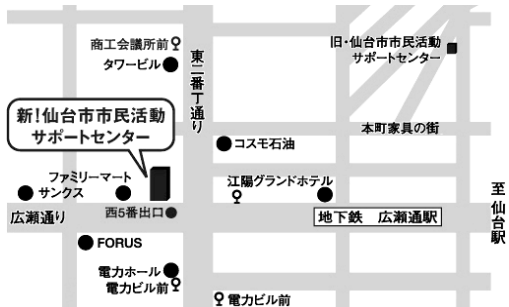
サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸 室
(研修室・セミナーホール・市民活動シアター/有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー(有料) レターケース(無料) 事務用ブース(有料)
- 交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース(要申込/無料)
- 情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書閲覧・貸出も行っています。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)
- 印刷作業室
印刷機(紙持ち込み/1 製版100円、紙折り機(無料))
コピー機(1枚10円)

問い合わせ先

案内図

発行 行：仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>



発行日：2008年2月21日
編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編集人：本田ふみ 千葉やす恵 葛西淳子

- ★古紙再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。
指定管理期間：2007年4月1日～2010年3月31日

■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前
[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ
□当施設に駐車場・駐輪場はございません。
お車や自転車でご来館される方は、
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。